

祖父と戦争

千間台中2年 千田 菜の子

戦争、それはとてつもなく大きな戦い。何千万以上の罪のない人々が命を落とし、誰なのかわからないぐらいに体や心をズタズタに引き裂きます。

私の祖父は、広島原爆を、体験しています。祖父は、私の母と母の姉、私にも、その時の話をしようとはしません。

そして、私達の方からも聞くことができないのです。もし、私が祖父に戦争について聞いたら、どんな顔をするでしょうか。祖父の話す顔を想像してみると、いつも私は怖くなります。

目の前に映る赤い海に祖父は何を思ったのか。突然の出来事に対してどう考えたのか。沢山の命が消えていくのを、どんな顔をして見ていたのか。どれも私は、そして母も知りません。ただ、知っていることは、原爆がおきた時、祖父がどうしていたかということ。祖父は、その時友人の家へ行く所だったそうです。その時、何の予告もなく、原爆が落とされたのです。祖父の友人の母親が、急いで家へと入れてくれたおかげで、祖父は無傷だったそうです。しかし、この話は祖父からは聞いていません。私の母が話をしてくれました。

戦争というものが、どのようなものか、私には分かりません。けれど、優しい祖父が戦争について話さないのだから、とてつもなく恐ろしいものだということは感じる事ができます。

つと私は途中で逃げ出してしまっていたと思います。支えてくれて、しかも私を変えてくれたのは友達です。本当に感謝しているし、皆が大好きです。信じられる、頼りになる存在が近くにいるというのは幸せすぎるのだと思っています。

自分は、たくさん支えられているけれど、逆に私は、友達にとつて信じられる、頼りになる存在になっているのでしょうか。そう思っています。素直に私は嬉しいです。私を信じてくれる人がいるならば、私は、その人達のことを絶対裏切りません。

中学生の今、出逢った友達、それは私の人生の中でとても大きな財産になると思っています。同じクラスの仲間、同じ部活の仲間、同じ委員会の仲間、人生の中で出逢える人は限られています。そんな中で、この仲間と出逢えたのは奇跡なのかもしれません。奇跡だとしたら、すごいことです。出逢えたことに感謝したいと思います。皆がいるから、今の私は成り立っているのです。今の私だけではなく、きつと十年後になっても、友達に支えられているのに変わりはないと思います。いつになっても私には友達が必要です。

十年後、二十年後の未来の私へ

今、あなたは友達を大切にしていますか。友達に支えられているということ、忘れてはいませんか。昔、出逢った友達との思い出、覚えてはいますか。あなたは、今日まで何人もの友達に支えられてきたはず。そんな皆を裏切るな

何も体験していない私達は、ただこの先の平和を願うことしかできません。私には、過去へと行く能力も、戦争を止める力もありません。黙る祖父の姿を見て、奥歯をギリと咬む私の姿が、たまにうかんできます。よく考えれば、私自身も、祖父に戦争というものを聞こうとしたことはないのです。祖父に戦争の真実を聞こうと思ったことが、まったくありません。

こんな言い方をしては、とてつもなく失礼な気がします。私にとつて、戦争は、ささいな食い違いで、沢山の人々が命を落としてしまうという、無責任で、自己中心的な戦いでしょうか。ええ。そんな戦いで、何の罪もなく、幸せに暮らしていた人達をメチャクチャにして、そんなことで良いわけがありません。大切な人を守れず、犠牲ばかりの戦いなんて、ただ虚しく、どうしようもないのではないのでしょうか。

何のために戦って、何のために死ぬのか。私の考えでは、どうしようもないということしか思えないのです。争いなんて、本当にくだらないことしか思えません。

だからこそ、私は祖父が、今、この世に生きていることが、私に笑いかけてくれることが、私をとてつもなく大切に思ってくれていることが、そういう一つ一つのことが、とてもうれしいのです。『生きていてくれて、ありがとう。』そういつも思います。もし、祖父がこの世に今、いなかったら、母も私も母の姉もこの世にはいません。

私は、この世界に生きる全ての人達が、心から笑っていられることが、本当の意味での平和だ。私は、この世界に生きていないと約束して下さい。そうすれば、今、あなたの近くにいる友達もきつとあなたを裏切ったりなんてしないはず。そして、その友達を信じて下さい。そうすれば、友達もあなたを信じてくれると思います。私は、未来の自分が、友達を愛し、大切にす、立派な大人になっていることを信じ、今出来ることを、未来に向かって精一杯やってみようと思います。

夢を追い求める

平方中3年 山崎 達哉

将来の夢を聞かれてあなたは何と答えますか。まだ決まっていなくてと答える人も多いと思います。ですが、夢は尊い物であり、それを糧にして生きているの気力とするものでもあると思います。だから、夢を持つことは前向きに生きることだと思おうのです。

半年ぐらい前、寒い冬の中、私は母と二人歩いています。すると、段差が上れない、車イスに乗った人と、それを押している人がいました。母はその姿を見たと同時に、すぐに手助けにきました。私が手助けしようか迷っているときでした。私は素直にすごいと思いました。それと同時に迷っていた自分が馬鹿らしく思えました。自分が少しの力を割くだけで、助かる人がいるのだから。

私は今度から同じような場面に出くわした場

なのではないかと考えます。そして、私はいつの日か、この世界が、沢山の笑顔であふれることを、地球という星が、幸せな星になれるように、願っていききたいと思います。

未来の自分へ

中央中3年 本田 杏菜

十年後の私は、どこで何をしているのだろうか。最近よく思うようになりました。しかし、未来の自分の姿は、今の自分には分かりませんが、未来の自分がどうなっているのかは、今の自分次第だと思います。

今の私は、とても充実した中学校生活を送っています。学校生活には楽しいこともあれば、悲しいこともあります。色々なことがあります。嬉しいときやつらいときに共通して言えることがあります。それは、まわりで支えてくれる友達がいるということです。一緒に笑ったり、一緒に泣いたり、一緒にぶざけたり、一緒に悩んだり。そんな友達が私のそばにいてくれます。私は中学に入学してから、中央委員という、クラスや学年をまとめる委員会に入っています。いつもいつもうまくいかず、皆をまとめるということは、とても大変なことだと改めて感じ、もう自分には出来ない、私は何度も落ち込んでしまうことがありました。しかし、今まで諦めず精一杯やってくることが出来ました。もし私に、友達という存在がいなかったら、き

合迷わず手助けしようと心に決めました。そして、将来、人を助けられるようになりたいと思いました。これが私の夢です。私はこの夢を叶えるために今、一生懸命頑張っています。そして、その夢は私に希望を与えてくれます。

将来の夢ときくと職業を思いがちですが、別に、職業に限った話でもないと思うのです。きつと、将来の自分に重ねるものとして職業が一番重ねやすいのではないかと思います。私はそうは思わないのですが、野球選手とかは夢があつていいですが今の私たちの年では、そんなことをいう人はあまりいません。もつと小さかつたころはそうではありませんでした。きつと心身ともに成長して大人になり現実的になったのでしょうか。少しさびしい気もします。正義の味方なんて言う人はいなくなりました。私はとてもよい夢だと思いますが、私はなれるもんなら正義の味方になりたいと思います。正義の味方は人を助けることができるのだから。

最後に、将来の夢をもつことは簡単なことではないと思います。だからこそ、じっくり考えて自分がやりたいこと、職業にかかわらず、胸をはれるような将来の夢をみんなにもってもらいたいと思います。



蒲生南小 2年 鈴木 諒祐

「人間と動物と恐竜が楽しく暮らせる夢のまち越谷です」



東越谷小 2年 高橋 璃央

「未来のショッピングモール。虹の橋をわたってショッピングモールに行きます」



南越谷小 1年 山川 楓太

「未来の越谷も水と緑と太陽のまちになってほしいな」

「未来の越谷～こんなまちになったらいいな～」

みんなが仲良く暮らすまち、笑顔がいっぱいのまち、自然がたくさんあるまち、交通が発達したまち。
次代を担う子どもたちに、「未来の越谷～こんなまちになったらいいな～」をテーマに絵を描いていただきました。
応募いただいた作品は331点。この中から、越谷市制施行50周年記念事業推進市民委員会で審査し、優秀作品30点を選びました。子どもたちが描いた作品をご覧ください。
(順不同・敬称略)



西方小 2年 飯野 菜々実

「かわいい小鳥がたくさん飛んで、きれいな花が咲いている越谷です」



蒲生小 2年 藤本 晴香

「魚や鳥などの生き物と楽しく暮らせるまちです」



川柳小 2年 本間 文音

「未来の越谷は、自分たちの家が大きくなって、買い物ができるビルがあって便利で明るいまちです」



明正小 2年 清水 千夏

「みんなが仲良く楽しく暮らせて、空を自由に飛べる楽しいまちです」



明正小 2年 井上 彩花

「車が飛んで、山から水が流れ、マンションやビルが虹色の楽しいまちです」



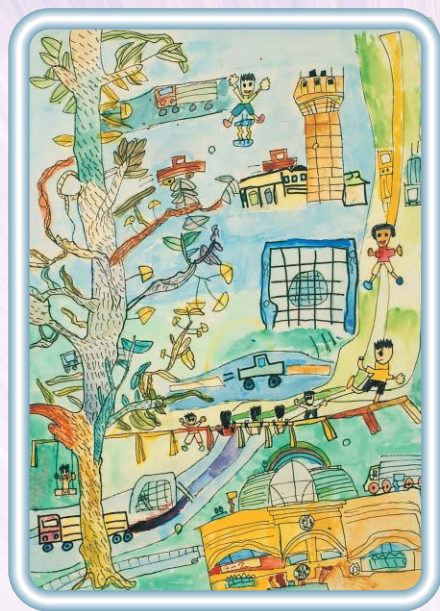
南越谷小 2年 山田 廉

「いろいろな乗り物に乗ってどこでもいけるといいな」



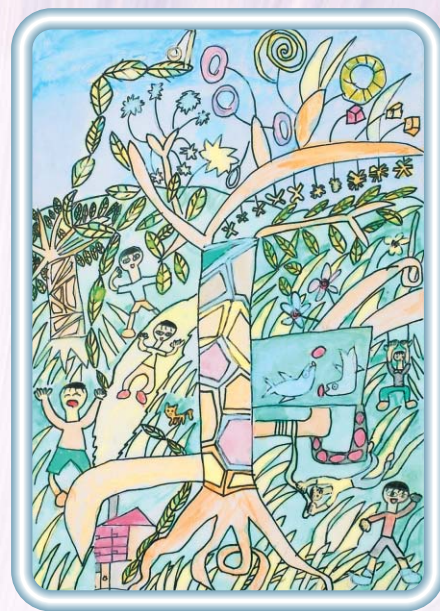
南越谷小 2年 深津 希望

「未来の越谷はきれいな花がいっぱい咲き、笑顔がいっぱいのまちです」



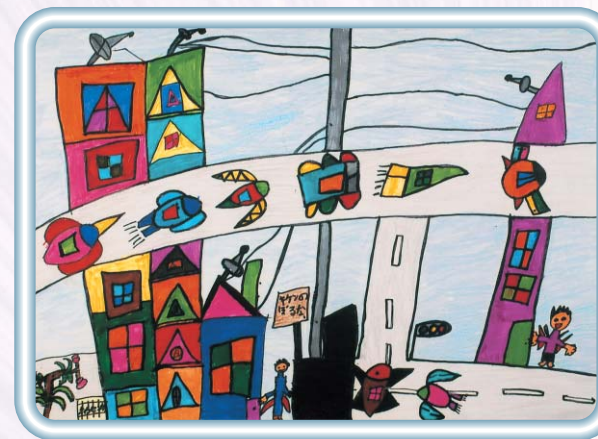
増林小 4年 ^{なかむら} 中村 ^{じゅん} 淳

「人が遊ぶさわやかな木。未来の越谷がにぎやかになるとうれしいな」



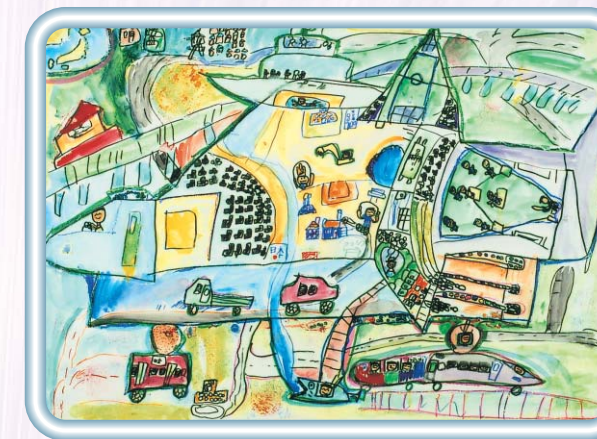
出羽小 4年 ^{ひらかわ} 平川 ^{しゅうこ} 秋胡

「子どもたちがアイデアを出してつくった地球と生き物にやさしいまち。酸素を作り出す木や葉の形の家、うすまき学校、地下のショッピングモールに続く木の根の道路」



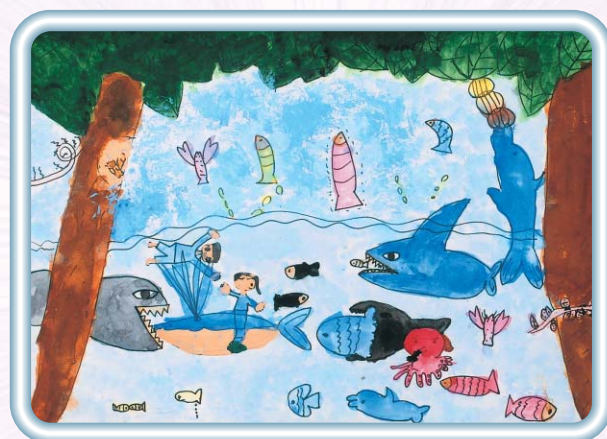
大沢北小 3年 ^{くどう} 工藤 ^{しゅうや} 秀哉

「越谷市の道路は高くなります。僕たちは背中に羽をつけて飛びながら遊びます」



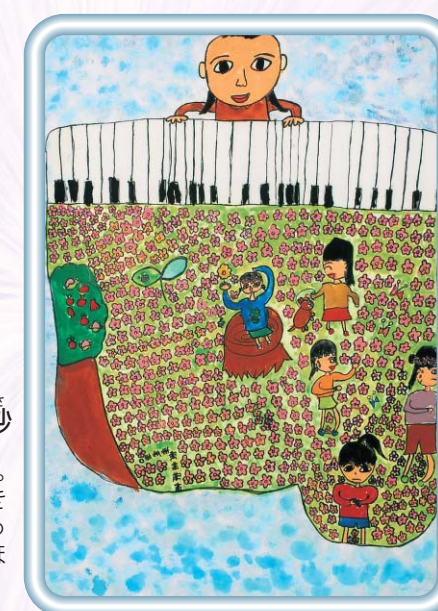
越ヶ谷小 3年 ^{みうら} 三浦 ^{なつき} 夏稀

「未来のスーパーランド飛行機。飛行機の中に車も電車、野球場、サッカー場、温泉、プールなど何でもありの飛行機が越谷にあったらいいな」



平方小 4年 ^{だいたく} 大徳 ^{あかり} 彩里

「越谷に海ができて魚といっしょに遊びたいな。クジラやサメの上に乗ってみたいな」



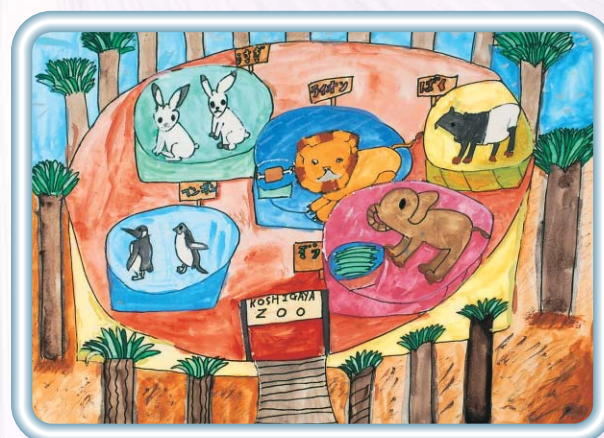
越ヶ谷小 4年 ^{こいで} 小出 ^{りさ} 梨紗

「わたしはピアノが大好き。ピアノの中の花畑が好きな場所です。大人になってもこの花畑があってもいいな」



大間野小 4年 ^{すえなが} 末永 ^{ゆいか} 唯花

「車でなくて自分の思った方法で移動できればいいな。カラフルで虹のまち越谷」



弥栄小 4年 ^{はせがわ} 長谷川 ^{さゆ} 沙優

「動物園などみんなが集まる場所ができればいいな」



荻島小 4年 ^{よしだ} 吉田 ^{なな} 奈々

「未来の越谷は自由に行けるトンネルカプセルでつながっています。排気ガスが減ってきれいになった空にはたくさんの星が輝いています」



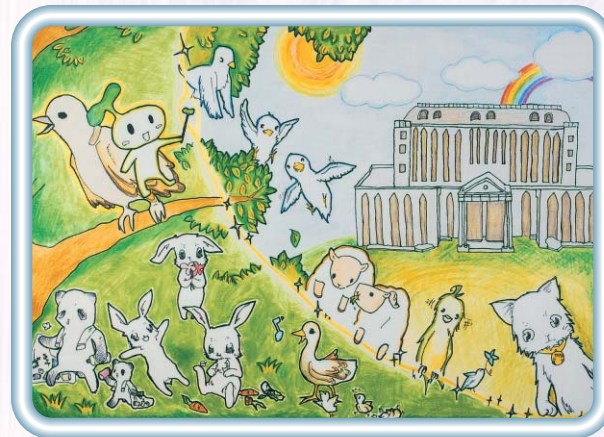
大間野小 4年 ^{たなか} 田中 ^{りかこ} 理香子

「川がいっぱい網の目のように流れて、生き物がすんでいるので鳥が集まります。水と水鳥のまちです」



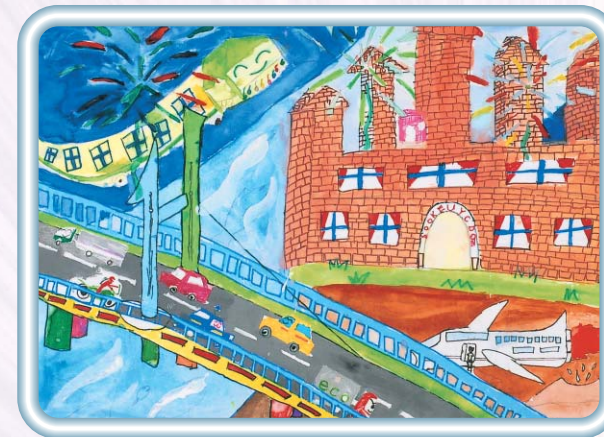
大沢北小 6年 ^{なみき けいすけ} 並木 慧介

「国際交流が盛んな明るいイメージを持ったまちになったらいいな」



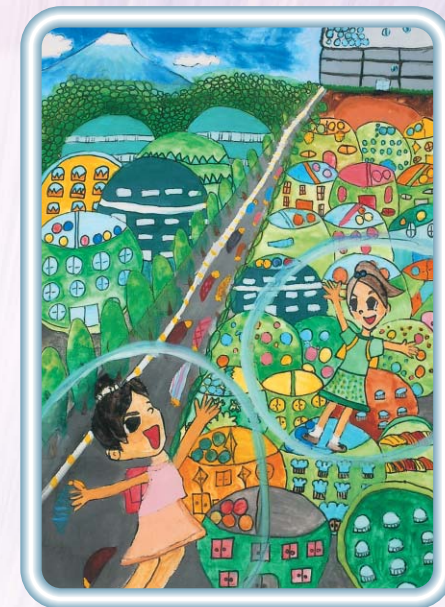
南越谷小 6年 ^{とがわ ゆり} 戸川 優里

「緑あふれる住みよい環境になりますように。動物たちにとってもやさしいまちになるといいな」



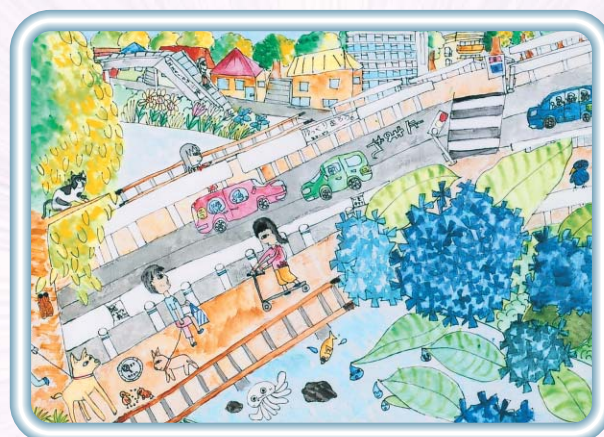
東越谷小 5年 ^{みなかわ けんた} 皆川 健太

「2108年の越谷。水素で走る車や空を電気で走る電車があって、環境にやさしくなっているといいな」



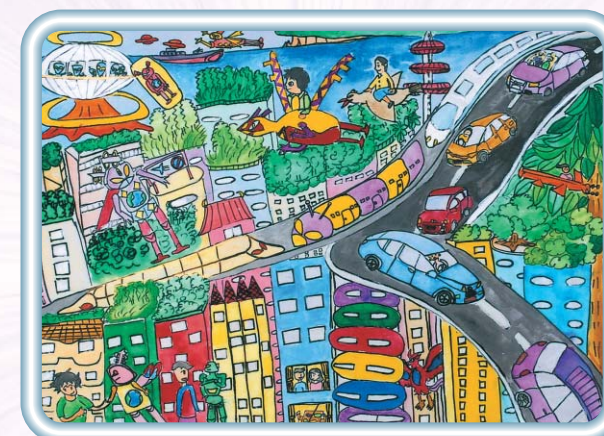
蒲生小 5年 ^{なかしま なつみ} 中島 捺実

「未来の越谷は空気もきれいで富士山が毎日見られます。建物はドーム型でシャボン玉の交通が登場します」



西方小 6年 ^{のむら あやか} 野村 彩華

「未来の越谷は川にいろいろな魚がいて、さまざまな生き物がすんでいるまちです」



北越谷小 6年 ^{やまかわ ゆうき} 山川 優希

「人間もロボットも、そこに生活するすべてが楽しく暮らせるまちにしたいな。地球環境のため建物の屋上にも緑を植えました」



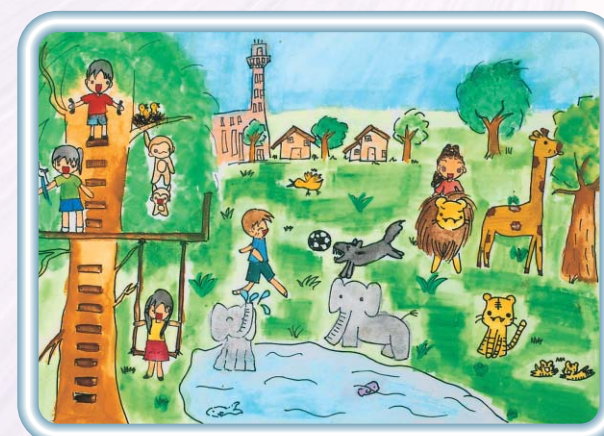
桜井南小 6年 ^{たかはし ここ} 高橋 呼々

「未来のレイクタウン。水と緑と太陽に恵まれたまちです」



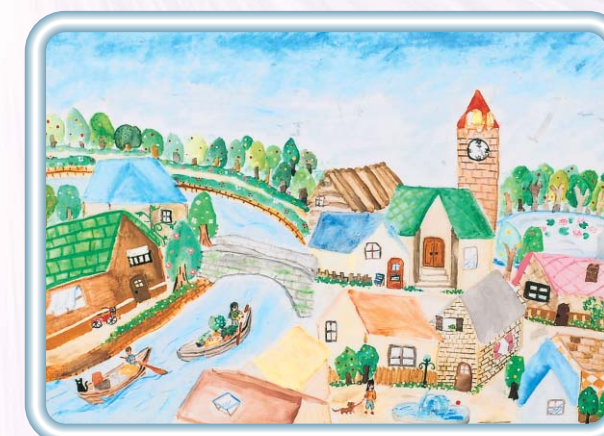
桜井南小 6年 ^{たけした かおり} 竹下 佳織

「未来の越谷は不思議な乗り物でいっぱい。自動で空き缶を拾うロボットもいて環境もよくなります」



増林小 6年 ^{おおかわ なな} 大川 菜名

「大好きな動物が自由に暮らせるまちになってほしいな」



出羽小 6年 ^{おおつか} 大塚 まりな

「緑の山、森、花、そしてきれいな川、人々が仲良く福祉活動が盛んな安全で住みよいまちになってほしいな」